

# 大川子ども&内科クリニック INFORMATION

→裏紙からつづく

は早めに予防治療からはじめましょう。OCFCでは花粉症の時期が終わりましたら、今年の経過を参考に来年度の治療計画をお一人ずつお送りする予定です。

なにはともあれ「鼻元過ぎてち花粉忘れるな」です。

## 感染症 だより

**インフルエンザ報告** 予防接種について:OCFCでの予防接種は平成12年9月27日に開始し、13年3月8日まで行ないました。接種者は8ヶ月の乳児から92歳の方まで延べ1177人に及びました。接種による副作用は8人で発熱、寒気、注射部位のしこりなどでした。その症状は2~3日で消失しました。副反応の発生率は0.7%であり安全に接種できたと考えております。

**インフルエンザの発症について:**OCFCで診断された方は1月7名、2月10名、3月81名でした。診断の確定は原則としてインフルエンザ抗原迅速測定キット(Becton Dickinson社、BioStar社)によりました。1・2月はインフルエンザA、3月ではほとんどがインフルエンザB型でした。OCFCでは1月と2月の患者さんからそれぞれインフルエンザウイルスを直接検出しております。症状は突然の発熱、関節痛、咳嗽、鼻汁、さらに嘔気・嘔吐等の消化器系症状を伴っていました。今年は幼稚園、学校単位の流行がなく、多くは家族内での発症でおさまっています。これもインフルエンザワクチン接種のおかげでしょう。診断確定後直ちに抗インフルエンザ薬を投与しますと、1~2回の服用で効果が出現、1~2日後に解熱しております。3月のインフルエンザはB型が多かったため小児にも投与できるシンメトリルが無効であり、成人向けのタミフルカプセルを小分けして小児に用い、著効を得ております。ただインフルエンザ接種者で7人の発症、さらに抗インフルエンザ薬無効者が4名ほど確認されました。予防接種者での発症に予防接種の時期は関係有りませんでした。

**その他の感染症** 21世紀も嘔吐下痢症が引き続き流行し、1月144名、2月134名3月130名となっております。二度、三度罹患する人もいましたが、繰り返す方は一般的に軽症でした。39℃代の発熱は約三割の患者さんに見られましたが、ウイルス感染症らしく、全例で抗生剤の必要もなく治っています。病原体は1・2・3月で23例、マイコプラズマ肺炎も10例発症しておりますが、外来治療で治癒しております。その他、流行性耳下腺炎、水痘等が幼稚園や保育園を単位として小流行しました。乳児を中心にRSウイルスによると思われる細菌性支炎が1・2月に増加し、3名紹介入院となっております。数名の患者さんに10日ぐらい続く発熱が見られました。咳嗽がありますが全身状態がよく、検査してもX線写真や血液検査で異常がありません。外来で様子を見ましたが、一部の患者さんには東邦大学小児科に紹介致しました。しかし同様の治療方針で、10日前後で治癒しています。保護者の方は心配でしょうが、検査しても異常がないときは子供を見守りながら頑張らしましょう。

### 一口メモ

#### セカンドオピニオン:

直訳すれば第二の意見だが医学的には主治医以外の第三者的医師の意見をいう。これは自分が、または自分の子供が受けている医療が適切であるかどうか主治医以外に尋ねることができる制度です。主治医は自分が行なっている医療を正確に伝えなければならず、セカンドオピニオンをする医師にはそれを評価する高い医学的能力が要求されます。

### 院内 機器

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(菌移移種にも対応できる)

検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、自動血球分析器、自動検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、聴力検査機器